

楽しくないと俳句じゃない！

夏井いつき『超辛口先生の赤ペン俳句教室』

これなら私もつくれそう！初めての人もうまくなるやさしい俳句入門書。 (「BOOK」データベースより転載)

【作者プロフィール】(「夏井&カンパニー」HPより転載)

昭和32年生れ。松山市在住。俳句集団「いつき組」組長。8年間の中学校国語教諭の後、俳人へ転身。「第8回俳壇賞」受賞。俳句集団「いつき組」組長。創作活動に加え、俳句の授業〈句会ライブ〉、「俳句甲子園」の創設にも携わるなど幅広く活動中。TBS系「プレバト!!」俳句コーナー出演などテレビラジオでも活躍。

実をいうと僕は俳句が苦手です。大学のロシア語合宿ではなぜか句会が恒例行事でしたが、僕を含めてみんなの俳句が俳句と言える代物ではなく、佐々木先生を「ホントに詩心というものがわかっていない」と嘆かせたものでした。また、比較文学の乾先生は「僕の句集が出ました」と控え目におっしゃったのですが、僕はその句集を手にとってみたものの、その価値を理解できずに購入を見送ってしまいました。その後、乾先生つまり夏石番矢は、日本を代表する俳人となって高校国語教科書に掲載され、その代表句を教えることになろうとはその時の僕には思いもよらなかったことでした。時は移って、娘が小学生の時のこと。宿題の俳句のどちらがよいか悩んでおりました。そこで国語教師の父親を頼ってくる、かわいい娘です。僕は、解説付きで「こっちの方がよい」と返してやりました。しばらくすると地区の俳句コンクールで入選したという嬉しい知らせが届いたのですが、入選したのは僕が選んでいない方だったのです。父親の権威が崩れ落ちた瞬間でありました。

そんな僕が初めてテレビ番組『プレバト』を見た時、「これは授業で使える！」と思いました。そこで私が事務局を担当していた国語研究会でぜひ夏井いつきさんを招いて講演会(句会バトル)を開催したいと提案し、実現することができたのでした。

実際の夏井いつきさんは、テレビの毒舌とは全く違うなんととも爽やかな方でした。俳句振興へのご自分の役割を覚悟をもって果たされているようにお見受けしました。それにしても、初対面の僕たちに気を遣わせずにお話くださる人間性にますますファンになってしまいました。そこで僕は不躰にもストレートに聞いてみたのです。「こんな僕でも俳句は作れますか？」

—— 季語から考えてしまうから駄目なんです。言いたいことをまず12文字で作ります。そのあとに季語を取り合わせていく。季語によって作品世界は変わります。それを楽しんでください。

俳句をもっと身近に、気軽に楽しんでもらうために人生を賭けていることを、決して気負うことなく、さらっと話してくださいました。「俳句振興のためならどこにでも行きます。」「プリントもどうぞそのままお使いください。著作権とかそんな構わないです。」

お陰様で句会バトルは大いに盛り上がりました。参加した先生方がその場で俳句を作り集めます。無記名で提示された句の中で良いと思った句をそれぞれあげて特選を決めていくのですが、僕の気合いを込めた一句はやっぱり選ばれませんでした。でも、心から俳句を楽しめたひとときでした。

夏井さんは、俳句甲子園に出場する学校が増えて俳句の裾野が広がってほしいとおっしゃっていました。僕にもインターネットでの投句をすすめてくださいましたが、今にいたるまでその一步を踏み出せずにいます。でも、芸術の秋、そろそろこの本を読み返して俳句を作ってみようかなと思う今日この頃です。

みなさんも、俳句、作ってみませんか？

